

平成25年11月 総社市高校生議会会議録

(平成25年11月21日 午後1時開会)

1 開会

平成25年11月21日 13:00

2 散会

平成25年11月21日 15:50

3 出席した議員の番号・学校名及び氏名

1番, 総社南高校, 有松慎之助	2番, 総社南高校, 渡邊 凌
3番, 総社南高校, 名木田 賢治	4番, 総社南高校, 林 真由
5番, 総社南高校, 金田 陸玖	6番, 総社南高校, 諏訪 真波
7番, 総社南高校, 木村 春香	8番, 総社南高校, 小林 加歩
9番, 総社南高校, 濱上 奈緒	10番, 総社南高校, 仲田 朱里
11番, 総社南高校, 人見 友萌	12番, 総社南高校, 福本 弥央
13番, 総社高校, 平田 汐夏	14番, 総社高校, 難波 夏未
15番, 総社高校, 庄司 直子	16番, 総社高校, 中村 綾香
17番, 総社高校, 松浦 公美花	18番, 総社高校, 瀬川 涼
19番, 総社高校, 大森 章吾	20番, 総社高校, 槌谷 年晃
21番, 総社高校, 細川 千晶	22番, 総社高校, 河野 洸都
23番, 総社高校, 永野 佑香	24番, 総社高校, 平田 実衣菜

4 説明及び職務のために出席した者の職氏名

総社市長	片岡 聡一	総社市副市長	荒木 政廣
教育長	山中 榮輔	政策監兼総務部長	風早 俊昭
市民環境部長	長江 章行	保健福祉部長	松川 伸治
産業部長	中島 邦夫	建設部長	水子 悟
水道部長	谷井 武夫	教育次長	松尾 一夫
消防長	関 撰夫	総務課長	難波 敏文
こども課長	河相 祐子	こども課主任	小野美千代

5 会議録署名議員

1番 有松 慎之助 14番 難波 夏未

6 議事日程

- 日程第1 議席の指定
- 日程第2 会議録署名議員の指名
- 日程第3 会期の決定
- 日程第4 市長あいさつ
- 日程第5 一般質問

7 議事経過の概要

次のとおり

開会 13:00

○議長(瀬川 涼)

皆さま、こんにちは。高校生議会で議長を務めさせていただくことになりました、総社高等学校の瀬川 涼です。一生懸命がんばりますので、皆さんご協力よろしくお願いします。

議会を開会する前にお知らせをいたします。

このたびの高校生議会ですが、基本的には市議会の形式により行います。しかし、模擬議会ですので、途中議長の交替をするなど、議事運営は市議会とすべて同じとはなっておりませんので、あらかじめご了承くださいと思います。

まず、高校生議会の一般質問ですが、発言順位につきましては、抽選を行い決定しました。また、質問時間につきましては、概ね一人5分程度とし、質問回数は2回までといたしておりますので、よろしくお願いします。ただいまより、総社市高校生議会を開会いたします。

.....(高校生議会 開会).....

○議長(瀬川 涼)

ただいまの出席、24名全員であります。では、これより会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配付いたしております日程表のとおり会議を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

・・・日程第1 議席の指定.....

○議長(瀬川 涼)

まず、日程第1、議席の指定を行います。議席は、議長において指定いたします。議員皆さんの議席は、ただいまご着席の議席を指定いたします。



・・・日程第2 会議録署名議員の指定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○議長(瀬川 涼)

次に、日程第2、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、議長より1番有松慎之助君、14番 難波夏未君の2名を指名いたします。

・・・日程第3 会期の決定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○議長(瀬川 涼)

次に、日程第3、会期の決定を議題といたします。おはかりいたします。高校生議会の会期は、本日1日限りとしたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(瀬川 涼)

ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

・・・日程第4 市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

次に、日程第4、市長からごあいさつをいただきます。

(片岡市長 登壇)

○市長(片岡 聡一)

今日は、高校生議会総社高校12名と総社南高校12名と、こうして議論が出来るようになったことをものすごく、すごくうれしく思いますし、本当に我々が本物の議会と同じスタンス、同じメンバー、同じやり方で答弁します。我々が答弁したことは、模擬議会といたけれども、そうではなくて正真正銘やるといったことはやります。出来ないといった事は出来ません。ですから、本物の議会と同じように、ここで答弁したことはそのまま市政に反映してまいります。そして、予算もつけてまいります。

今日は傍聴席に本物の議長がお目見えで、あそこへいらっしゃいますが、議長がこの議会を監視しておりますので、この議場で発言した我々の答弁はすべて本物の答弁と同じになりますので、そのルールでやっていきたいと思っております。そして、ほんとの議会ではあまりやりませんが、今日は各部長、幹部が勢ぞろいでありますので、キラーパスありますからね、いきなり振りますから、部長各位も心して答弁していただくようお願いをいたします。

いい議論が出来ますことを期待してあいさつといたします。よろしくお願いいたします。

・・・日程第5 一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○議長(瀬川 涼)

ありがとうございました。

次に、日程第5、一般質問を行います。一般質問は、お手元に配付いたしております一般

質問通告者一覧表に記載の順序により、順次質問を許します。

まず、12番 福本弥央君の質問を許します。

○議長(瀬川 涼)

12番 福本弥央君。

(12番福本議員 登壇)

○12番(福本 弥央)

総社市内の施設利用について提案します。

まずは、公園の活用についてです。総社市内には多くの公園がありますが、一つ一つの公園がとても狭く、遊びにも制限があり、子ども達にうまく活用されていないのではないのでしょうか。例えば、総社市溝口にある溝口公園では、「野球・サッカー等は、

公園を利用する人に迷惑になるのでしないでください。」との表示や、駅前二丁目にある総社公園には、「公園内でのゲートボール・グラウンドゴルフ以外の球技は危険であり、近隣にも迷惑をかけるので禁止します。」との表示があります。

確かに、ボール遊びは近隣にも迷惑をかけることがあるでしょう。しかし、きちんとネットなどの整備を整えることができれば、多くの子ども達が活用できる公園になるのではないのでしょうか。公園すべてに整備するのは難しくても、遊具中心とか、ボール遊びができる場とか、それぞれに特色を持った公園づくりがあってもよいと思います。

また、ジャングルジム、ブランコ、鉄棒、すべり台などの遊具は、新しい公園以外、錆びなどが目立ち、子どもたちを遊ばせるには危険なものもあるので直してください。「子育て王国」の総社市としては、子ども達が、安全にのびのびと遊べる場所の確保は必要です。

次に吉備路アリーナについてです。ここは学生をはじめ、県内外の多くの方々にスポーツを楽しむ場として活用されています。しかし、2階の窓、会場入り口のドアを開けることができない規制になっているので、夏場は高温となり、運動できる環境ではありません。換気扇だけでは対応できない状況ですので、熱中症の危険性もあります。窓やドアを開放し、ボールが外に出ないようにネットを張るなどといった対策をお願いします。また、アリーナの使用予約についても、総社市内の学校団体は、一般よりも早く受付できるようにご配慮いただけないでしょうか。

次に、図書館の利用についてです。図書館には、小さな子どもからお年寄りまで総社市内の多くの方々が集います。私たち学生もそこで勉強をしたいと思っています。しかし、総社市図書館では、学生が勉強できる場がありません。そこで提案をします。3階の展示ホールの有効利用です。現在は、書家の高木聖鶴さんの記念展示が行われています。ただ、普段は大きなイベントは行っていないと図書館職員の方からお聞きました。したがって、その場所の空き状



態に応じて勉強スペースとして活用することができれば、私達学生も調べ物や学習に大変役立ちますので、是非お願いします。学生時代から図書館を身近に感じれば、本に興味を持つ人も増えていくと思います。

また、総社市図書館では子どもたちを対象としたブックスタートやお話の部屋、おとぎの部屋などの活動が多くありますが、そのような活動やイベントについての情報がうまく市民に伝わっていないように思われます。広報紙やインターネット、ポスター掲示などとともに、図書館利用登録者へのメールサービスなどをなさってはどうか。

さらに、市内でワークショップを行う小冊子を見かけたことがあります。そのような冊子やパンフレットの配布をはじめ、様々な活動を支援したり、情報を発信したりする拠点として、図書館が存在すれば、市民の豊かな生活につながっていくのではないのでしょうか。

以上を公共施設の活用として提案します。

(拍手)

○議長(瀬川 涼)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

福本議員のご質問にご答弁いたします。私は、公園というテーマでまず答弁をいたします。その後、教育委員会施設のことについては教育長から答弁をいたします。

公園については福本議員がね、結構ピュアな感覚で質問してくれて、すごく良い質問だと思います。もう大人になったらね、公園はもうあれであんなもんだというふうに思い込んでいるようなところがあるので、やっぱり公園は変えていかなければならないと本当に思います。今、総社市内にはですね、溝口公園とかあんなタイプの公園が94箇所あります。それからスポーツ公園とか北公園の陸上グラウンド陸上競技場とか、ああいう大きなのが6箇所、それから河川公園とか緑道とかああいうタイプのやつが14箇所、まあ総社市内にあるんですけども、私は、福本議員が言う新たな公園の整備とか活用のあり方について、予算化して遊具であるとかね、ネットであるとかやるということは、オッケーです。賛成します。同意します。それで2つの観点から答弁をしたいと思いますが、1つはですね、これから総社市がセカンドステージにいかうことを考えています。セカンドステージは、この4月1日、今年度から僕が言い始めたワードなんですけれども、もう少し市民がね、あるいは我々市役所がね、上の段階にのぼっていかうじゃないかということは今考えています。それはどういうことかという、いつまでも市役所におんぶにだっこで市役所がこう言うからこうしましょうではなく、市民が考えて市民が実行する市の形に変えていかうと、いわゆる、総社市内を自立性を高めていかうということをやります。来年の4月から、実は一括交付金制度というものをやります。総社市内15の小学校があるんですけども、各小学校区に予算を紐付きでないものを配分します。今まではね、このお金は公園の整

備に使います、このお金は草刈作業に使います、このお金はゴミステーションに使います、このお金は街路灯の電球の交換のために使います、このお金はイノシシなんかから稲を守るための防護柵として使いますというね、市民にお渡しするお金が全部紐付きで、その紐のついたお金を市民は粛々と実行していただくというのが今までのスタイルです。でも、それ駄目でしょ。市がこういうからこの使い道、この使い道、この使い道、発想がないからね。来年からは、それを、全部紐をとっぱらって、総社小学校区は400万円とかね、なに小学校区は何百万円というて、その地域、地域、地域で、自由にお金を使ってもらいます。その地域、地域のことは、地域の自治組織が、こんな公園にしたいねとか、こんな祭りがあつたら楽しいねとか、敬老会はもっとこういう景品、記念品を出しましょうよとか、その町その地域ごとで考えて、使ってもらおうと思います。その結果どういふことがおこるかという、職員が必要なくなっちゃいます。地域に仕事を委ねて、職員の仕事をなくして職員の数を減らしていく。それが、いわゆる市役所から住民に権限を委譲していくというやり方です。ですから、これからその公園の整備などにいたっては、これは一括交付金が全部使えるわけじゃありませんけど、その地域、地域で、遊具がほしいねとか、ネットを張ってもっとソフトボールができるような公園に変えたらどうかとか、そういうのを地域の声を汲み取って、それを地域の自主性に任せて変えていくということを、段々、段々と、総社市は目指していこうと思います。ほんと皆さんね、市役所なんていらんんですよ。住民の方々が自分の好きなように仕事をやってくれたり、何やかんややってくれたら、市役所は年金とかね保険とか住民票とか、基本的なことだけやって、残りは地域の方々がやってくれるというシステムにしたら、市役所はもっともっともっともっと小さくなっていけるでしょ、というようなスタートに来年からしたいと思ってます。ですから、住民の意向を聞いてね、公園がこうあるべきだっというその意見を汲み取りながら、お互いが、住民と我々がやっていったらいいというふうに思います。

もう1点の観点から言いますと、これから議員の方々の質問がいっぱい出てきますけれども、やっぱりどんなにグッドなアイデアでもお金がかかる、財政のことを考えていかなければいけません。財政についての考え方なんですけれども、今総社市は、一般会計、普通のみんなの予算を約253億で去年まわしてます。今ですね、今約253億でやっています。そこで僕が考えないといけないのは、やっぱりこれ以上借金を増やさないと財政運営をしていかなければいけません。今ちょうど、総社市の借金は約300億円あります。1年に使うお金よりも多い借金を持つてる会社って、本来なら潰れちゃいます。だけど自治体だからもっているということだけです。だから、約300億円の借金をね、もうこれ以上増やさないと決意が必要なんです。それから経常収支比率というのがあって、これは約253億の中にもう行き先が決まっている予算、職員の給料とか、雪舟くんを走らせるお金とか、さっきの公園とかね、そういう行き先が決まっていますよ、というのが我々でいうと全体の予算の約90%あるんです。これをね、もう絶対に90%よりも上に上がらないよ、ということを目指していきたいというふうに財政運営上は思っているんです。僕の目指すところは、やっぱりその単年、1年間で黒字になるということと、それから今日、部長級が全員並んでますけれども、各部の年間予算が去年よりも1円たりとも多くなならない

予算の組み方をするという、これを顕示したいと思ってるんです。そのやり方を、前の年よりも来年の予算、今年の予算を上回らないというシステムのことをゼロシーリングという呼び方をしているんですけども、まあどうにかこうにかゼロシーリングを保ちながら、借金をこれ以上増やしていかないという財政運営をやる中で、公園の予算というものを考えていかなければならないというふうに思います。

この後担当部長、建設部長が答弁しますけれども、全予算に対して公園の予算がどれくらいあって、これをどれくらいなら増やせれる許容範囲なのかということについて、具体的なことについて答弁をいたしますので後で聞いてください。ということで、公園については、財政が確かであればやるべきだと思うし、それから地域の発想があればこれはやっていくべきだということも答弁したいと思います。

○議長(瀬川 涼)

建設部長。

(建設部長 登壇)

○建設部長(水子 悟)

命によりまして、私の方からただいまご質問にお答えさせていただきます。公園費の予算は毎年約5,200万円の予算でございます。それがただいま市長が申されました約253億円のうちの数パーセントでございますが、出来るだけ可能な限り、いくらとは申し上げられませんけれどもお願いさせていただいて、ただいま議員がおっしゃられたそれぞれの特色をもった公園作りということは、私どもの今後の公園のあり方についての重要な形でございますので、少しでもみなさまのご意見を取り入れながら、地域のみなさまや子どもたちに楽しんでいただけるような公園を作りたいと、そう考えております。以上でございます。

○議長(瀬川 涼)

教育長。

(教育長 登壇)

○教育長(山中 榮輔)

福本議員のご質問にお答えいたします。まず吉備路アリーナの件ですけれども、窓は開けられます。あれは網戸がついております。ちょっと2階はブラインドを上げてからでないと開けられないんですけども、空気が流れるようになっています。扉も開けることができます。ただ、先ほどお話がありましたように、扉を開ける場合は防球ネットありますから、それをつけると。この際両方ともですね、管理者と相談していただきたい。といいますのも、1つのグループだけで使っているわけではないのですかね、窓を開けると風が入ってきて、ちょっと球技といいますか、例えばバドミントンなんかですね、風が入ってくると出来ないというのもありますので、ぜひ相談して

やっていただきたいと思います。そういうことで基本的にオッケーであります。それからもう1点、市内の学校団体が優先的に使えるようにということでもありますけれども、これは、学校の行事、それから学校同士の対抗戦とか、そういった公的な色合いが強い場合は優先的に使っていたいております。ただ、部活になると非常に微妙なんですね。部活が非常に多いのでなかなかそれを全部吸収するのは難しいのと、それからもう1つは、部活の場合は学校にそれなりの体育館があるということもありますので、これも空いてれば使っていただくと。ただし、一般の市民と同じコンディションで、ということになりますけれども、ということです。

それから図書館ですけれども、3階の展示ホールこれは今のところ展示する場所が、総社市の中に非常に少ないということで。普通の市ですと、市民が、例えば美術館の中に市民のギャラリーがあると、ということで展示が出来る場所があるんですけれども、比較的少ないので、図書館の一番上のスペースホールを市民に開放しながら使っていると。今回は高木聖鶴先生の書の展示をしておりますけれども、そういうことですね、とりあえず今の状態では展示スペースとして使いたい。昔これを開放したことがあるようなんですけれども、なかなか目が行き届かないのと、少しマナーの悪い人が多くてコントロールできなかったというのもあるようです。だけどそれが全てではありません。ただ、確かに夏休みに場所が足りないとかありますので、2階に視聴覚室というのがあります。これは結構なスペースがありますので、これは空いているときに開放したいと思っております。それから最後のメールサービスと情報発信拠点という話ですが、残念ながら今メール配信できない状態であります。ただ、平成28年の10月にはこれをやる予定で進めております。今のところですね、それを見ていただくためには県のメールマガジンを使っていたら見ると、ちょっと情けない話なんですけれども、ですから、そういう活用の仕方をしばらくしていただきたいと思います。それから、ご提案のあった情報発信基地にするということは非常に素晴らしい発想でありまして、是非これを参考にしてそういうふうに進めていきたいと思っております。以上です。

○議長(瀬川 涼)

次に、21番 細川千晶君の質問を許します。

21番 細川千晶君。

(21番細川議員 登壇)

○21番(細川 千晶)

私、細川千晶は、昨年行われた子ども議会に参加させていただきました。昨年の参加者である松浦公美花、河野洗都、大森章吾、細川千晶の4名を代表して質問させていただきます。

今年は、総社市でも度々大雨警報が発令され、休校も5日間を数えました。そこで今回は、昨年に



引き続き、総社市の防災対策についてお聞きしたいと思います。

まず、昨年に中島由香さんが提案した総社市防災週間についてですが、今年の5月25日から31日の1週間行ったということを広報紙で知りました。自主防災組織や幼稚園、小学校などを対象とした起震車体験や防災講座、消火訓練など、さまざまなイベントを開いていただき、とても感謝しています。県立大学のみなさんが描いてくださった防災カルタは、楽しく防災を学ぶものとして、とても良いアイデアだと思いました。昨年、宮城県の仙台市や石巻市へ訪問した際、現地のみなさんがおっしゃっていた「準備」が子ども達には少しずつできてゆくと感じました。

しかし、これから地域社会の核となる高校生の私たちは、その1週間を防災週間と知らずに、無意識に過ごしてしまいました。防災週間を実施して、その効果や市民のみなさんの反応はどうだったのでしょうか。

また、子ども達には多くのイベントが行われたようですが、先の伊豆大島の台風災害からもわかるように、被害者は高齢者が多いにもかかわらず、高齢者に対する取り組みは少なかったように思われました。さらに、総社市ではホームページでの防災に関する情報は充実してきているように思いますが、残念ながら、高齢者のすべての人がホームページを見ることができるとは限りません。従って、幼い子どもや高齢者にもわかりやすいパンフレットを作り、地域ごとに説明会を開いてはどうかと考えます。

さらに、南海トラフが起きた場合に、東日本大震災の教訓を生かし、中心となるのが我が総社市ではないかと考えます。総社市が岡山県を支える役割を引き受ける、そのような取り組みを進めていけば、総社市の存在価値がさらに上がると思いますが、そのような取り組みについてどのようにお考えですか。また、南海トラフが起きた時、総社市の被害を出来るだけ減らすための取り組みについて、どのようになさるつもりですか。

最後に、新たな取り組みとして、私たちから提案をします。

被害を最小限にするためには、まず、市民一人ひとりの防災に対する意識を高める必要があると考えました。そこで、親しみやすく軽快で独特なメロディの防災についての「歌」を作ってはどうか。お店の食品売り場やテレビのコマーシャルなどで流れるおなじみのメロディは、自然と頭に入り、ついつい口ずさみたくなります。この効果を利用し、防災のオリジナルの歌を作ることによって、市民の防災に対する意識の向上はもちろん、総社市の活性化にもつながると思います。以上で、私からの質問を終わります。

(拍手)

○議長(瀬川 涼)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

細川議員のご質問にお答えをいたします。4項目災害に対してでございますが、まず1点目の子ども議会で中学生時代に細川議員もこの議場で討論して、防災週間を作ったらどうかという質問に対して、やりましょうということで5月の25日から31日まで防災週間としてやらせていただきました。これも子ども議会から生まれた総社市の政策ということになりました。この間に各地域で地震体験車をまわして、実際に避難をして訓練を行いました。総社市全体で、約1,500人の参加者がありました。人口68,000人に対して約1,500人というのは、少ないといえませんが、まあよく集まってくれたかなという思いではあります。しかし議員がおっしゃるように、高校生にも声がかからないし、この約1,500人の方は、当然各地域のお世話をしてくださるようないつも定番の方々であって、なかなか不特定多数の全員の市民に知らしめるには至らなかったというのが、今年の防災週間のあり方だったと思います。ですから、さらにこれにどうやってコマーシャルをのっけていくかとか、どうやって発信していくかということ、これから僕らはもっと真剣に1,500人プラスアルファ、残りの66,500人くらいの人々にどうやって届いていくかということ、もっと真剣に考えないといけないと思います。

ただ一方で、確かにその約1,500人の方々にとっては、やっぱり防災それから避難とか、そういうことを真剣に考えて訓練しておかなければいけないなという思いには、達してくれたと思います。僕がこの週間のときに訓練の場で挨拶をするときによく言っていた言葉なんですけれども、人間は訓練が全てではない。だけど、人間というものは、いざとなった時に経験したことのないことは出来ない。だから、訓練というものはやるべきなんだ、ということなんです。総社市は、宮城県の79人の両親を亡くした子どもたちに、総社市民のみんなの義援金なんかも含めて、10万円ずつ5年間79人に送っています。総額約4,000万円を震災孤児たちに送っているわけです。今3年目ですけど、段々、お礼の手紙とかが子どもたちから来るようになりました。僕が仙台に行ったときに、今仙台市内に住んでいる小学校3年生、1年生そして幼稚園の三姉妹、両親を亡くして細々と生きています。そのお家に僕がお見舞いに行った仙台でのお話しですけど、その子達は親を亡くした、母子家庭だったのでママしかいなかったんです。ママの遺影がそのお家の中に飾ってあったけど、その時、地震のとき3月11日はどうだったのという話になったんです。そしたらその一番上の三姉妹女の子ばかりですけど、ぐらぐらと地震が起こったときに、その小学校は名取市閉上って一番激しかった所なんですけれども、地震が起こって、学校の先生が裏山にみんな逃げようといって逃げた。そしたら向こうの方から砂埃と一緒に、津波というのが黒い水がやってきて、もう学校はのまれちゃった。そのとき小学校の1年生かなんかだった女の子はママがいないということに気づいて、その避難テントみたいなところを抜け出してママを捜しに行った。1人でね、ちっちゃい子どもが。そしたら遠く離れた避難所みたいなところその下の妹がいて、妹と一緒に、じゃあ2人でママを捜そうと言って子どもの足で歩き回ったら、ずっと離れた避難所で一番下の赤ちゃんの妹がいて、3人が一緒になってママを捜そうということで、ママを捜した。そしたら2週間後ぐらいに、避難所に3人固まっていたところに、君たちのママじゃないかという大人がやってきて、その写真を見た

らママの顔だったと。ママは一体どこで死んでいたかという、その長女が逃げ出した小学校の校門の前の車の中で水死していたということです。ですから、そのママは長女を救うために、車で小学校の正門のところまで行ったけれども、そこで津波にのまれて死んじゃったということです。もし訓練のときにね、津波が起こったら、地震が起こったら、どんな大事な人でもそれを救いに行かないで、自分で逃げまじょうと、離れ離れになってもいいので、自分で高台に逃げまじょう。子どもを救いに行ったり、ママを捜しに行ったら駄目ですよ、という決まり事を1つ持っていたら、そのママは死ななかつた。だから防災訓練とか、知っておくとか、体験しておくという事は、ものすごく大事なことなんだ、ということが言えると思うんです。そういうことがこの5月25日から31日までの間に、約1,500人だったけれども、その話を僕はずっとしてまわって、理解をしてくれた住民はいるのではないかなというふうに思っています。ですから、この防災訓練は、来年もずっとやっていかなければいけないと思っています。それから、お年寄りとか、子どもたちに周知するごくごく簡単なやつですけれども、これはやっていかなければいけないと思います。高齢者の方々が集まるサロン事業というのがあって、お年寄りが健康のためとか地域の中でやってるんですけど、今担当部長がいますのでサロン事業の中で防災というものがどういうふうに語られているかということについて答弁を後ほどいたしますけれども、そういう仕組みはあります。それから、子どもについては、今子ども新聞というのを作っていて、これも皆さんが提言して出来た子ども新聞ですけれども、これも担当部長の方からこの新聞に分かりやすく防災のあり方っていうのをどうやって伝えていくか、これはやったらいいと思うので、その考えを担当部長から答弁をしたいと思います。

次に、3点目の総社市の役割についてであります。僕らは東日本大震災で貴重な体験をしました。これは体験というあまりにもむごたらしいので、体験という失礼な言い方になるかもしれないけれども、お金では買えない貴重なデータであり、貴重な経験測であったと思います。我々はですね、アムダというグループと組んで、震災直後に岩手県の釜石市とそれから大槌町に行きました。その当時は沿岸部が壊れてましたから、我々は裏日本から回ってですね、山形とか左側サイドから岩手県に入っていました。そのときのあり方として、沿岸部分の釜石と大槌に行く補給基地として、内陸部の遠野市という市があった。これは壊れてませんでした。ここで補給して、ここでロジスティックをやって入っていくというやり方でした。だからここで何を学ぶかという、この南海トラフ、岡山県下でも約55万人が死ぬと言われてますけれども、恐らくそうであれば、浅口、笠岡、倉敷、玉野、備前、瀬戸内、この沿岸部分というのはかなり津波で被害を受けると仮想しなければなりません。総社の場合は、総社大橋のどこまで津波が高梁川を渡って遡上してくる。あの橋あたりが1つのラインになってくると思いますけれども、津波ベースでいうと恐らくこの辺までは来ないだろうということは予想にはあります。そうなるかどうかということが起こるかという、沿岸部、倉敷なんか沈んじゃったときに、我々はほんとにサプライセンターになるんだと思うんですよ。地形的にも、たぶんバイパス2号線は浸かっちゃうでしょう。それから山陽高速道路は地震で倒壊して使い物にならないでしょう。そうすると全国からの救援物資などのサプライはですね、国道180号線バイパス、或いはそこからまっすぐ行って矢掛を越

えて高梁に行く農道，こういう道路がもっとも使い道がある緊急物資のサプライ道になっていく。その拠点性を有するのが，総社市というポイントじゃないかなというふうに思っています。ですから，本当に南海トラフのひどいのがやってきたときには，総社市はサプライセンターになると思います。サプライセンターになったときに，何を持っておくかというのも考えなければいけないと思ってます。本来的にはね，乾パンであつたり毛布であつたり，そんなもんです。水であつたり，今，水はうちはたくさん持っていますけれども。でも，そういうものをこれからはやっぱり僕らは倉敷市長と話をしなければいけませんけれども，どの市も同じものを持っておく必要はない。役割分担をしながら，倉敷が持っているものと同じものを僕らが持つ必要もない時代になると思うんですよ。例えば，今の発想ではあり得ない，何でそんなもの必要なかというもので言えば，船を総社が持つておくべきもの変わってくるのではないかな。津波で沈んでしまった倉敷にボートで輸送する，船で物資を運ぶみたいな役割が，恐らく総社には必要になってくるというふうに思います。そしてもう1つ，もっと大きな見地でいうと，この12月議会に上程をする予定になっておりますが，世界の命を救う，世界ばかりでなく国内の他の被災地を救うための条例というのを僕らは作っておかなければならない。そのために予算化をしておかなければならない。これって結構重要なことですが，難しい。難しいというのはなぜかという，南海トラフが起こったときに，総社市が傷ついていたら他所を救うなんてしません。総社市民を守るのが当然です。だけど，今回のフィリピンみたいなこととか，それから，まあフィリピンはちょっとイレギュラーですけど，国内的に，この間の津和野とか山口が大量の雨でめちゃくちゃになったけど，それから東北で岩手に行ったりとか仙台に行ったりとか，これは市民の税金を使って援助するわけですよ。市民の方々は，なぜ人の助けをするんですか，私たちの税金を使ってなんで岩手県に行くんですか，なんで津和野なんかに行くんですかといった，そのそしりとか疑心暗鬼になかなか応えられない。これはハートで行ってますとかアムダと組んでるから行ってますと言ってますけれども，やっぱりそこには整合性を得たものを持っておかなければならないというふうに思うんですよ。基礎自治体，いわゆる市役所というのがね，よその市を救いに行くというのは，例はあるんです。それは，平常時から姉妹縁組を結んでいるとか，何かの協定を結んでいるところには行けるけど，何の関係もない，しかし死者が出ているというところに簡単に支援に行けないっていうのが，今の我が国なんです。だけど，これらを条例化して，これらを予算化して，国内で本当に激甚的な災害が起こったときに総社市は救いに行きますよと，助けに行きますよと，そういう条例をもしこの12月議会で我々が可決成立することが出来たなら，これが日本全国的に総社の方式が広がっていけば，この国はもっともっと初期段階で多くの命を救える，そういう仕組みが出来るといいんじゃないかなというふうに思います。本当に被災地に行くのに，なんかコソコソ，コソコソやってるじゃなくて，市民にちゃんと理解を得て王道を歩んで，そうやって全国の命を救う，そういう組織体である新たな役割というのをこれから総社が持つていこうということを考えております。

最後に歌ですけども，これは歌とか僕は良いんじゃないかなと思いますが，これも担当部長の方から答弁をいたします。以上でございます。

○議長(瀬川 涼)

総務部長。

(総務部長 登壇)

○総務部長(風早 俊昭)

命によりまして私のほうからご答弁申し上げます。まず、お年寄りに向けてのサロン事業の中での防災に関係するような説明ということでございますけれども、本当にありがとうございます。昨年のこども議会の中でのご提案をいただきまして、それに合わせて私どもも努力して作り出した防災カルタは、なかなかお年寄りにはご好評でございまして、実は小さいままでは少し使にくいというようなこともありまして、A4判の大きさのものにいたしまして、非常に好評を得ております。こういったものでお話をしながらカルタとりなどをいたしますと、非常に喜んでいただけるし、お年寄りにとりましては、私のような年代もそうですけれども、小さいころにカルタ遊びで色んなことを覚えていったというふうなことにも繋がってですね、昔のころを懐かしみながら防災のことについても色々頭の中にもう一度入るといふふうなことで、とても喜んでいただいております。今後も防災カルタ、それからご存知ですかね、防災標語ということもいたしました。そういうふうなものを、せっかく市民の皆さんからいただいたものを、しっかり広めていながら、そういう防災の色んな知識というものを、今後とも広めていきたいなということでございます。ご提言のお年寄りや小さい方々へのわかりやすいパンフレットみたいなものを、ますますこれからも考えたいと考えております。それから、こども新聞、こちらのほうも去年のご提言の中でいただいたものと考えております。今まで2回お渡ししておりますけど、これから防災に関することもその中に入れてやっていきたいと思っております。なかなか私どものこの固い頭の中でどうかというものもありますけれども、出来るだけ見やすいイラストなどを入れながら作っていただけたらいいかなと思っておりますから、またご協力をお願いいたしたいと思っております。

それから最後のご質問でございましたか、歌でございます。市長もおっしゃいましたが、良いなという感覚でございます。両校ともダンス部もあると聞いておりますから、そんなタッチのものを考えていただけたらいいかなというふうにも思います。また一度ご相談に行かせていただけたらと思っておりますから、どうぞよろしくお願いいたしたいと思っております。以上でございます。

○議長(瀬川 涼)

次に、9番 濱上奈緒君の質問を許します。

9番 濱上奈緒君。

(9番濱上議員 登壇)

○9番(濱上 奈緒)

現在、総社市は人口増加の傾向にあります。しかし、総社駅は、すぐ近くにお店や待ち合わ

せが出来るような場所がなくにぎわいも感じられません。そこで、私たちは人や物の拠点となる総社駅周辺、さらには総社市全体を活性化させるために、次の2つのことを提案します。

1つ目は駅前の空いている所を市が借り、小中高校生、大学生、または一般の方の展示やワークショップのために貸し出しスペースを確保するというのはいかがでしょうか。総社駅周辺にはテナントを募集している店がいくつかあります。駅を利用する学生や社会人も多いので、その人たちが足を止めることのできるスペースがあればよいと考えます。場所が提供され、作品展示や活動発表が行えるようになれば、人が集まる可能性が生まれます。小さい子ども達から大人まで発表できる場や創作できる場が駅前にあれば、活性化につながっていくのではないのでしょうか。実現すればそこに交流も生まれ、新しい総社の発展につながるアイデアもうまれる可能性が出てきます。また、そのようなサークル活動をするメンバーを募集するのも1つの案です。



2つ目は総社駅を利用したイベントを増やすことはできないのでしょうか。総社駅では冬のイルミネーションが華やかです。しかし、もっと年間を通して楽しめるイベントがほしいと思います。そこで、吉備路自転車道を使つての観光地巡りのイベントを提案します。観光地巡りは今もありますが、新たにスタンプラリーという形式に変えます。総社駅または東総社駅では、電車利用の人が回れるようにレンタサイクルを用意します。そして、例えば、作山古墳、備中国分寺、こうもり塚古墳、備中国分尼寺跡までを、スタンプを集めながら巡り、駅まで帰ると参加賞がもらえるという案です。商品としては総社市のゆるキャラ「チュッピー」を使ったものが小中高生の人気にもなり、宣伝になるので良いと思います。親子連れでも巡れる距離のコースや、季節ごとに変わるコースなどを工夫すると1回ではなく何度か足を運んでももらえるかもしれません。例えば春や秋には桜や紅葉が楽しめるコースにしたり、夏休みには特別コースを設けて、スタンプも夏季限定にしたりといった、変化があると楽しんでもらえると思います。現在の観光地巡りルートは岡山市に入ってしまう、しかも総社駅まで帰るのに長い時間を要します。長距離ルートを設定する際には、備前一宮駅にも協力してもらおうと、相互の魅力がプラスされるのではないのでしょうか。

また、宣伝方法についてですが、市長が利用されているようなツイッターやフェイスブックなどを利用し、広く伝わる方法をとると市外や県外の方が訪れてくれると思います。そうすれば、駅前の店でお土産や飲食物を求める人が増えるでしょう。人が集まればそこに必要な店やものが生まれ、さらにそれが人々を呼ぶのではないのでしょうか。

以上2点を、総社駅周辺を活性化させるために提案します。

(拍手)

○議長(瀬川 涼)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

濱上議員のご質問にお答えいたします。実に的を得た、今の総社に欠けているものは何かと言えば、この質問はすごくタイムリーですごく良い質問でありました。まず1点目の総社駅の駅前についての考え方ですけれども、ここがね僕もそうなんですよ。久しぶりに総社駅前に帰ってね、寂しいあそこはなんか田舎だなっていうふうに思うけど、それを毎日見ていたら慣れてきて、あれが当たり前になっているのがこっちにいる人々。あなたたちは寂しいなというふうにならずに思っていて、どうかならないのかしらというね、それはもう当然のことだと思います。総論的には、僕はもうおっしゃるとおり、もうそのとおりだと、やるべきだと思うんですが、ただ市役所の役割というのがあります。駅前を活性化させるための僕らの役割ってというのは、僕らが自分のお金を使ってテナントを借りてワークショップとか、市が借り上げてなんかやるっていうのは1つの策ではあるけれども、それには広がりを持たないと僕は思っています。僕らの役割は、もっともっと市の人口を増やして、総社市の駅前が市場(しじょう)として成立する、商いが成立するゾーンに市全体を変えていくというのが、僕らの役割だと思っています。そのためには、人口を増やすということが大事。そして、さらに企業を誘致して雇用を増やしていく、人を増やすということが僕らの最大の役割になってきます。幸いに、今2箇所のゾーンで企業誘致が8社連続で成功いたしました。1つのゾーンは、ユニチカがある常盤のエリアで、ここには今3社食品メーカーが入ってきます。この間もプレゼンで説明しましたが、モンテールが来て、大黒天物産が来て、シノブフーズが来ます。ここで1,500人ぐらいの雇用が生まれてくると思います。さらに、総社インターチェンジの西側のエリアでGLプロパティーズ。今巨大な棟が建っていますが、その裏に同じようなのが建ち、その裏にまた大手の企業が進出して来ようとしています。最終的には、エリアに雇用が2,000人ぐらい生まれてこようかと思っています。もう一方で、長い間みんなも嫌だなと思っていたと思うんですが、総社市の駅前の天満屋ハピータウン跡、これが幽霊屋敷のようになっておりましたけれども、ずっと我々が天満屋さんに対してあれを倒してほしいと、処理してほしいというお願いをして、結果としてやっとな年の2月いっぱいであれが倒されて、新たな街の開発、新たな建物があそこに建つ予定になっております。そういうふうに人口が増えてきて、総社で商いをやれば儲かるよ、総社駅前に進出すれば儲かるよというバックグラウンドを作るというのが我々の大なる仕事であります。今の総社市が段々変わろうとしておりますけれども、人口が増えて、増えるから企業が来て、企業が来るから雇用が増えて、雇用が増えるから学生が戻ってきて、学生が戻るから人口が増えて、人口が増えるからその総社市の街の中だけで商いが成立していく、という経済文化圏を作っていくというのが僕らの大なる仕事です。ですから、このスパイラルが正なるスパイラルに変わったときには、僕は将来的に、来年再来年ではないとしても、この連鎖がどんどん広がっていけば、僕らが手を加えないでも総社の駅前

にはいっぱいやってくる。アミューズメントとかワークショップとか、いっぱい総社の駅前に狙いを定めてやってくるディベロッパーというのは必ず出てくると思います。さらに、もっと人口が増えていけば、総社高校に通うところの商店街筋とか、ああいうところにもレストランが進出してきたりとかね、色んなものが商いとして成り立つようになれば、ディベロッパーが見放すはずはありません。今総社で一番注目されているのはマンション業者です。総社でマンションを建てれば売れるっていうのが、今の不動産業界の1つの見解です。これが、さらに総社で飲食店をやれば儲かるとか、総社でアミューズメントをやれば儲かるとか、そういう土壌を我々がバックグラウンドに用意していく。それを優先的にやれば必ず総社の駅前は結果として変わってくる、ほっといても変わってくるというふうに信じて、企業誘致をさらに進めていきたいと思ってます。

次に、吉備路自転車道を活用したスタンプラリーですけれども、総社の観光アイテム歴史アイテムというのは、みなさんすごく良いと思っている。でも、こっちのメンバーは当たり前だと段々思い始めて、普通の状態になって良さが分からない。灯台下暗しとかね。僕は大学は東京なんですけれども、学生時代に友達と一緒にツアーをしたことがある。旅行をね。後樂園へ行った、それから総社の吉備路でレンタサイクルを借りて、チャリンコでぐるぐると五重塔の辺りを回った。作山とかね。それから当時高梁には猿がいて、臥牛山っていうのがあって、猿を見に行った。それから新見に行って井倉洞を見に行った。それから山陰に行って出雲大社に行った。日ご碕灯台を見て、一泊して鳥取砂丘に行って、津山に戻って岡山駅に着いて東京に戻って。この7ヶ所を巡って、東京のやつらにどこが一番楽しかったかと聞いたら、国分寺のレンタサイクルが一番良かったと、一番楽しかった、爽快だったと言いました。決して僕が総社の出身者だからではなくて、五重塔の雰囲気が一番良かったと言いました、みんなが。だから、さっきおっしゃったそのエリアを点にしないで面にして、面同士を結んで、点同士を結んで面にして、スタンプを押したものを何か商品に変えるとか、オプションつけてそれを高く売っていくというのはすごく良いことだと思うので、これは将来的にやっていこうと思います。ツイッターとか、僕はツイッターをやってますけど、色んなことをツイートしますけど、総社高校とか総社南高校関連のことをツイートするとめっちゃリツイートが増えるというのは、みんなの発信力、高校生の発信力というのはとても強いと思うので、是非みんなも協力してください。受験勉強もしながら、こればかりしないでね、ツイッターしてフェイスブックやって、僕らがこういうアイテム作りますから、ぜひ協力いただきたいと思います。以上答弁いたします。

○議長(瀬川 涼)

9番 濱上 奈緒君。

(9番濱上議員 登壇)

○9番(濱上 奈緒)

いつごろ人口が目標に達するとお考えですか。また、正のスパイラルはいつ完成するのでしょうか。

○議長(瀬川 涼)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

濱上議員の次の質問にお答えをします。僕はですね、物事の数字を目標達成するときに、臨界点というある一定の数値があると思ってます。その臨界点というのは、例えば僕らの人口当座10万人を目標とすれば、10万人を達成するためには今の68,000をどこまで上げたら後はだだだだっといくんだろうか、という数字のことを臨界点だと思っているんです。例えば、今そうじゃ吉備路マラソンをやっています。今18,500人という大会になってます。将来的に20万人を目指してやっていますが、2万にいくための臨界点は一体何人だったんだろうなと思うと、1万5千人を超えた時点でだだだだっといくんそれが臨界点だったんで、僕らはその臨界点はマラソンの分野では超えているんだと思います。だから我々の仕事は、1,5000人までをマイセルフで上げていくというのが仕事だった、後はもうほっといてもいっちゃうというのが臨界点。例えば障がい者千人雇用というのを今やっていますが、千人を達成するためには一体どこが臨界点だろうと思う時に、僕はやっぱり750人じゃないかなというふうに思うんです。今は670人まで上がってますけれども、750人までは歯を食いしばって色んな手立てをして増やしておけば、750を超えたらもう世間が認めてだだだだだっといくんいっちゃうというのが臨界点だろうと思います。それから雪舟くんというシステム、バスを走らせてますけれども、一日平均250人という目標を立ててやっていますが、もう250人クリアしちゃいました。250人を達成するための臨界点って何人だったんだろうと今振り返ると200人、200人を超えた時点でもう250は約束されていたという臨界点だった。人口的に10万というと、10万達成するためには我々がマイセルフでどこまであげていったらいいのかと思えば、僕はやっぱり8万人だと思うんです。8万を超えたらもう10万はほっといてもいっちゃうというのが臨界点です。だから今68,000で、あと12,000人の人口を僕らがほんとに企業誘致とか行政の努力によって8万まで上げていったら、あとはもう誰が市長をやっても10万までいっちゃう文化になると思うんですよ。だから、その8万をいつまで作るかってことですけど、僕はやっぱり20年はかかると思ってます。その8万を超えたらその20年後には、僕は絶対に10万を超える都市になるというふうに思ってます。だけど、その8万を作る土台を作るのは、この3年4年が勝負です。今その企業誘致と、それから人口増、それから出生数、子どもの生まれる頭数を増っていくのを必死に頑張っていたら、20年後には8万になり、40年後には10万になる。それが僕の推定的将来予想図。だけど一番大事なのは、この3、4年の勝負だというふうに思っております。

○議長(瀬川 涼)

ここで、議事の都合により議長を交代します。

ここで、しばらく休憩いたします。約十分間。

.....

○議長(仲田 朱里)

休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議長を務めさせていただきます，総社南高等学校の仲田 朱里です。一生懸命がんばりますので，ご協力よろしくお願いします。



次に，15番 庄司直子君の質問を許します。

15番 庄司直子君。

(15番庄司議員 登壇)

○15番(庄司 直子)

総社市の国際理解，英語教育について及び一括交付金について質問します。

質問は2つあります。

1つは，総社市の国際理解，英語教育についてです。小学校学習指導要領では，平成23年度から，5，6年生において年間35時間の外国語活動が必修となっていますが，総社市では18年度から，すべての小学校において，中高学年には20時間，低学年には10時間をあてて，総社市独自の授業を実施されています。また，外国語指導助手(ALT)



を小中学校合計で9人配置しており，英語の正しい発音や自然なイントネーションに慣れることに役立させています。さらに，平成3年度からは，中学生を毎年10数名ずつ海外のホームステイに派遣しています。こういったことから，私は総社市の小中学校では英語教育にも力を入れていると考えています。しかしながら，岡山県には高校生をホームステイに派遣する制度はありません。民間団体等が実施する高校生を対象としたホームステイ制度はありますが，募集人数が少数であるため，総社高校の生徒が参加できる機会はとても少ないです。全国学力テスト成績第1位である秋田県では，1995年度から全国に先駆けて「高校生海外派遣研修」をスタートさせました。総社市も多文化共生をスローガンとしてあげています。もちろん，高校は県立なので岡山県に要望すべきかもしれませんが，総社市在住あるいは総社市に通学する高等学校の生徒も総社市の海外ホームステイに参加できるようにしていただくことはできないでしょうか。

もう1つの質問は一括交付金についてです。一括交付金制度について次の2つの疑問があ

ります。まず、一括交付金の規模は15小学校区に6,000万円くらいになると調べました。様々な予算を整理、統合し効率よく配分するための計画だと思いますが、この予算によって省ける予算がどれくらいになるのか教えてください。

次に、各小学校区に交付される金額が400万円位であると考え、この金額では専門で担当する人を置くことはできず、ボランティア等でこの仕事に当たることになると思います。地域で使うお金であるため、独りで使い道を決めるわけにもいかず、地域住民に負担と責任がかかることにもなりかねません。また、交付する場合には、地域で頑張ってください方へのサポート体制、不正が行われないようにするチェック体制などが必要になると考えられますが、その点についてはいかがお考えでしょうか。これで終わります。

(拍手)

○議長(仲田 朱里)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

庄司議員のご質問にお答えいたします。確かに、英語という語学は、これからのみんなが社会に出て行く上でなくてはならないツールになってくると思います。ですから、基本的に庄司議員がおっしゃったように、僕は答弁の中でですね、県のことだからとかね、県立高校って県のことだから県に言ってくださいとかね、そういう答弁はしません。ですから、なんとかそういう仕組みができたらいいなと思います。県に相談はするけれども、県におねだりをしたりとか、お願いしますお願いしますみたいなことを殊更言うつもりもあまりないので、良い仕組みが出来たら良いと思って、やっていきたいと思っています。予算的にもどうできるか分かりませんが、前向きに検討してまいりたいと思っています。僕もネイティブの英語を体感するという事は、日本の学校の教室の中でオーラルのイングリッシュを学ぶよりも、何百倍もの効果があると思います。僕も大学を卒業する手前の2月ごろに、社会人になったらもうこんなこと出来ないからと思って、27、28日間ヒッチハイクでアメリカへ行きました。まずロサンゼルスに行って、そこから国内の飛行機でツーソンという西部劇の本拠地みたいな、西部の砂漠地帯に行きまして、そこでレンタカーを借りたりヒッチハイクをしながらメキシコに行って、メキシコから今度フェニックスに戻って、グランドキャニオンのコロラド川を車でどんどん北上してページュという小さな町に行って、それで帰ってきたことがあるんですけど、その体験というのは本当に僕の原点みたいなことでもあります。それからその後仕事で30数カ国ですかねもう忘れちゃったけど、仕事で行きましたけど、そのときにもうちよつと語学力が長けていたらなんと楽しくてなんと良いことなんだろう、ということも経験しました。ですから、みんなにはぜひ英語を学んでほしいので、生の英語をね、ぜひこのホームステイ制度というのは前向きに考えてみたいと思います。一方、ちょっと教育委員会のほうから補足説明いたしますけど、今後のあり方として、来年4月1日から山田幼稚園とい

うところと、維新幼稚園、ほっといたら来年の入園児数が0人で無くなっちゃうというような幼稚園なんですが、無くすことは簡単なんですよ、園児がいせんから。山田は廃園にします、維新も廃園にします、その代わりに近くの幼稚園と統合してコストダウンしていくと言えば、みんな納得ですからセーフティなんですけども、それではつまらないので、もっとそこにお金を投資して、ネイティブの英語教師、できればアメリカ人、できれば北米とかイングランドが良いんですけど、招いて英語だけを話す幼稚園、それを将来的には維新小学校、昭和小学校、昭和中学校にあげていこうかというふうに思う。そのところでこの総社南と総社高校とどこかで連携出来たらすごく楽しい英語一律教育っていうかね、そういう像が出来るものを将来像として、詳しくは教育委員会が答弁しますが、そういう形を作っていければ良いなと思っていて、英語はすごく良いことだと思います。一方で、僕らは多文化共生をやってますけど、ブラジル人が一番多くて、次は中国とか韓国とかフィリピンとかそういうところなんですけれども、やっぱりもっともっとハッピーな多文化共生の実像というか実際成功例、果実を作って。この国は移民の受け入れについてスタンダードな見解をもたない国だから。選挙権ないでしょ、外国人ブラジル人に選挙権ないしね。選挙権の問題を言うと、特にその北朝鮮とか中国人が選挙権持ったらどうなるんだっていうそういう問題にいくから、その手前でね、移民や外国人を受け入れる国か受け入れない国かという、その正当なるスタンダードな見解がこの国にはないんですよ。例えば、中国に対しては、2国間交渉で3年間だけは実習生として迎え入れる。しかし、彼ら中国人は税金払わないんですよ。それが2国間で成立してる。それから、ブラジル人は納税者なんです。納税者なんだけれども、選挙権はないとかね。だから、そろそろ僕らも本当にこの総社の市内で多文化共生のハッピーな成功事例をもってね、やっぱり外国人がいると迷惑とか学校がストップしちゃうとかそういうことではなくして、本当にブラジルの日系三世四世、今四世が来られてますけど、彼らを日系人についてはまずブラジルとかペルーとかチリとかね、南米については百年前の入植者、我々日本人が行って、その曾孫、曾々孫が来ているわけですから、そういう者については受け入れて選挙権を与えるべきだとか、そういうことを僕がこれから外務省あるいは内閣府とか外国人を迎え入れる役所に対して、提言をしていこうかと思っています。そういうラテン系も含めて、外国との文化というのはやっぱり進めていくべきだと思っています。

次に一括交付金でありますけど、これは12月の本物の議会でドンパチくるだろうなというふうな身構えがあるんですけど、それを正直に出してまず答えておこうかと思っています。まず省ける予算がどれだけあるかについてですが、6,000万を省くつもりは、とりあえずありません。最初の当初設計6,000万というのは、今まで紐がついて配っていたものを全てまとめてインクルードすると6,000万になるということなので、これが例えば5,800万とか5,600万に縮小して削減すると、かなりそれぞれの地域においては喪失感というのが出て、テンションが上がらないと政策はスタートしていけないと思うので、6,000万の中に削った予算は含まれておりません。むしろ、オプションとかつけて増やすということはあるかもしれませんが、減らすことはありません。将来的に、これが自主運用をしてみて繰越が出るとか、様子を見ながらですけども、さじ加減をやるかもしれませんが、当座はそんなことは考えてはいません。ただ、僕は将

来のこの日本の国の形として、なんでもかんでも行政に任せたりとか、行政がやってくれるだろうという社会というのはもう成り立たないと思っているんですよ。これから少子高齢化で実働部隊が段々少なくなっちゃう中で、今までみたいに国がやってくれる、県がやってくれる、市がやってくれるという仕組みの中では、絶対パンクしちゃう。だから、住民で出来ることは住民がやる、地域で出来ることは地域で考えてやるという仕組みを作って後世に渡していくというのが、今のタイミングだと思います。どのみちこの日本の形というのは、権限は、国は県におろすし、県は市におろすし、市は地域におろす。そうやってスリムに、スリムにしていって、別にこの市役所の職員がサジェスチョンしたりフォローしなくても地域は地域でやっていける仕組み作りというのは、最終目標として描いていかなければいけない。これは、2番目のチェック体制とかサポート体制とか、こんなものこの大量のお金をボランティアで出来ないじゃないかという、これは大方の考え方。これを今地域の方々に、一括交付金でこの小学校は幾ら、この小学校は幾らと言うと、必ずその質問が出てきて、こんなの出来るか、こんなのボランティアで出来るか、市役所の職員がやれ、というのが今までのこの市のムード。だけどそれを一步ワンランクアップして、セカンドステージと言ってますけど、その地域、地域がやってやろうかと、それなら400万円で組織を作って地域で工夫しながらこれを上手いこと運用してそのコストパフォーマンスを高めるように、そして、なおかつ公平平等で有機的でフレキシビリティに富んだ使い方が出来る組織が15小学校区の中で1つ2つ3つ4つ5つ増えてくればね、変わるんですよ、この町が。この小学校区ってこんな面白いことやってんのとか、こんなこと出来るの、それでみんなすごい喜んでとか、そういったことがどんどん、どんどんあっちこっちに出来ていけば良いと思う。ただ、これは理想郷であって理想論であって、後の、担当部長から、今どういう議論で各小学校区のボランティアがどうかチェックがどうか、どういう仕組みでやっていて説明をしていて、どういう反応があってどういう難しさがあるのかというのを、今サンドバック状態になってますからね、ひどい目に遭ってるんですが、一つずつこなそうとしているその現場の様子を後に答弁してもらいます。総論的には、地域のことは地域でやる、そして役所は手放して役所はスリムにしていく、これが我々の目指す日本の形だと思ってやっていく、ということを申し伝えて答弁いたします。

○議長(仲田 朱里)

市民環境部長。

(市民環境部長 登壇)

○市民環境部長(長江 章行)

それでは命によりまして私の方からお答えを申し上げます。一括交付金の説明会を、今各地域でそれぞれ行わせていただいております。約40回の説明会を、それぞれ色々な方々、地域とか様々な団体にさせていただいておりますけど、庄司議員が言われるとおり、地域の負担が掛かるんじゃないかという声が、やっぱりあるということがあります。また、チェック体制とかその

辺がどうなるのかというようなご質問もありますけども、先ほど市長が答弁しましたように、これは地域の課題に合ったものに使っていただくということの一括の交付金でございますので、その面ではやっぱり地域の皆さんがそれぞれ工夫をして考えていただくということになって、その部分では負担というのはあると思います。市長が答弁していましたように、市民の皆さんで考えて市民の皆さんが実行していくということを、それがこれからは大切なんだということを、今地域の皆様方にお話を進めているというところでございます。この4月のスタートに向けて、しっかり私たちも地域の皆さんがやはり納得していただけないと進んでいけませんので、その説明をしっかりやっていきたいと思っております。以上です。

○議長(仲田 朱里)

教育次長。

(教育次長 登壇)

○教育次長(松尾 一夫)

それでは命によりまして、私の方から来年の4月から取り組もうとしております英語教育について、少しご説明させていただきたいと思っております。市長が先ほど申し上げましたとおり、山田幼稚園、それから昭和の維新幼稚園、維新小学校、昭和小学校、昭和中学校というところで、来年度から今までやっていた英語教育以上のことを取り組んでいこうということにいたしております。幼小中一環という形で英語教育に取り組むと、そこで授業を担当していただきます先生方につきましては、英語が出来る日本人ではなくて、日本語が出来るどこからみても外国の人、この方に英語の教育に取り組んでいただくということで、語学というのはやはり小さければ小さいほど身につけていくと言われております。ですから、幼稚園の3歳保育、そこから取り組んでいけばよりグローバルな人材が育っていくのではないかという考え方でございます。皆さん方も、この中で総社の中学校小学校に通われた方は、既にALTによる教育を受けてこられたと思っております。それとはまたちょっとですね、若い年代から取り組んでいくということでございます。詳細につきましては、近々皆様方のお手元に届きます広報そうじゃへ、特集号として載せております。是非皆さん方のご兄弟でそういう年代の方がおられる、或いはご親戚の方にそういう年齢の方がおられれば、今度のその取り組もうとしている幼稚園小学校中学校は、学区をとっばらいます。総社市或いは総社市外からでもそこを希望すれば入れるというふうに、規制緩和をしていこうということでございます。それから、近々オープンスクールということで、今取り組んでいる昭和の小学校の英語の教育を見ていただけるということも企画をいたしておりますので、是非皆様方も、もしお時間があれば、オープンスクール、特に関係はないかもしれませんが見ていただくと、ちょっと変わった英語教育をやっているんだなということが体感できるのではないかなと思っております。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長(仲田 朱里)

15番 庄司直子君。

(15番庄司議員 登壇)

○15番(庄司 直子)

ありがとうございました。さっきの話で質問を3つほどしたいんですけどいいですか。

1つ目は、幼小中一環で、日本語ができる英語の先生がやるということですが、英語が出来る日本人は居ないんですか。居なかったら、幼稚園からその人たちにみてもらうということで、日本語の低下というものがみられたりはしないんですか。

2つ目は、総社市に海外の人を迎え入れるということですが、そうすると外国の人がたくさん総社市に来ると思いますが、外国の人の雇用がたくさん増えて、総社市の人の雇用は減ったりしないんですか。

3つ目の質問が、これは一括交付金のことなんですけど、日本で過去に一括交付金をやったところはあるんですけど、すぐに取りやめになったりしているところがたくさんあると調べたんですけど、総社市は長くこの制度を安定して使うために、何かそういうような対策はしているんですか。

○議長(仲田 朱里)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

庄司議員のご質問にお答えをいたします。1点目の日本語の強化についてですね、日本文化、日本の教育、日本人たるものの在り方についての教育については、教育委員会の方から答弁をいたします。

2点目の外国人の雇用についてなんですけど、これはあまり心配することはないと思います。心配するどころかちょっと逆の心配がありましてですね、常盤のところモンテールという会社に来る、そして大黒天さんも来てシノブフーズさんも来て、あそこで食品メーカーのパートさんが1,500人揃いますか、揃わないんですよ。今の状況でいうと、えらく総社が売り手市場になっていて、パートの人材を見つけること自体難しい。倉敷とか岡山とか高梁とか近隣から集めるしかないというのが各社の今の悩みなんで、そういう意味では外国人は貴重な戦力になってくるとは思いますけど、あまり日本人と外国人との職種分野でバッティングはしないと思います。例えば、ブラジルの方々というのは結構自動車産業、部品工場で多く雇用されていたんですけども、悲しいことなんですけど、リーマンショックとか日本が経済危機に陥ると日本人を切らないで外国人を切っちゃうんですよ、むしろ。だから、そういう雇用の面では結構外国人ハンデを負っていて、そういうのは逆に僕らは助けてあげなければいけないと思っています。

それから3点目の一括交付金の、これほんとよく調べたと思うんですけど、これを上手くいかせるためには、やっぱり僕らがよっぽど強いリーダーシップを持って、信念を持って進める以外にはないかなと思います。どこかで何かこういうふうに頑張るともっとお金が増えるとかね、何かそういうインセンティブみたいなものを作らないといけない時が来るかもしれないなという思いはあるんですけど、それぞれの地域がテンション上がるように、地道にやっっていこうかなというふうに思っております。

○議長(仲田 朱里)

教育次長。

(教育次長 登壇)

○教育次長(松尾 一夫)

それでは最後のご質問にお答えをさせていただきますが、ちょっと私の説明がまずかったかなというふうに思いますが、日本語教育はもちろん日本人の先生に行っていただくんですが、外国人の方と一緒にですね、日本人の先生もついて当然指導はやっていくと。そして、日本語がしゃべれる外国人の方をお願いするということは、やはり私自分の体験からして今でも外国人の方が私に声をかけられるとちょっと引いてしまうところがありますけれども、幼稚園の年少さんからほんとに見た目も外国人だなという方と会話をしていくと、大きくなってもそういう部分では非常に親しみを感じて、外国人だからということで引くようなこともないと、これも一つの教育のあり方かなと思います。ですから、小さいころから外国語に慣れていくという意味での今回の英語教育特区というようなことを発想しているということでございます。日本語は日本語として、大事に教育していかなければならないと、当然のことだと思っております。以上です。

○議長(仲田 朱里)

次に、4番 林真由君の質問を許します。

4番 林真由君。

(4番林議員 登壇)

○4番(林 真由)

総社市の安心で安全な環境づくりについて提案したいと思います。

まず、第1に歩道の街灯です。

例えば、私達総社南の生徒が、通学路としているJR伯備線沿いの道には、街灯の数が少なく、日が暮れると足元も見えないほどで、こちらにご覧



になる写真のようです。こちら側に我が校がありますが、ここに道があるのがみなさんしっかりご覧いただけるのでしょうか。私たちはほぼ毎日このような道を通って帰っています。

常盤小学校やあのね保育園などにも近い道ですが、人気が少ない、車もあまり通らないため、夕方1人で帰ることがためらわれます。道路の幅が広く、せつかく自転車用道路も作っているのに、残念です。

また、子どもが多く遊んでいる常盤公園近くにある歩道や、住宅地付近の広い道に、灯りが1つも無い所があります。それから、総社駅周辺の道路や商店街、大通りにかけても全体的に暗く、横道に入ると、さらに街灯がないため、危険で通りたくない印象を持ちます。特に、総社駅周辺は、車の通りが多いため、人影に気づきにくい暗さでは、事故の危険性も高くなります。

そこで提案したいのが、JR伯備線沿いの様に、暗くて夜歩きにくくなる箇所への、街灯設置です。できれば、電柱2本分の区間に1本の街灯を設置していただきたいと思います。これから日の入りも早くなってきますので、子育て王国そうじゃの子どもたちに、安全な環境を保証していただけるよう、ご検討をよろしくお願いします。

第2に、歩道の整備です。総社市内の歩道は細く、凸凹した所が多くあります。180号線や常盤通りなど自動車の交通量の多い道などでも歩道が狭く、すれ違う際にはやむを得ず車道に出なければならぬところがあり、転んでしまいそうになる所もあります。これも、こちらのよう写真をご用意しています。凸凹なっていて歩きにくいという所が、良くわかると思います。車の通りもとても多いです。これは、小さな子どもや、体に負担の掛かりやすい高齢者の方にとっては危険であると思われます。また、こちらの写真にあるように、交差点ですが、出会い頭衝突しやすい状況の改善と、180号線の歩道で細くなっている箇所の拡張と整備のご検討をよろしくお願いします。

最後に、今回は通学路など私達高校生が特に身近な所について交通、身の安全について危険な所を調べ、その改善を提案しました。しかし、それ以外にもまだ安全とはいえない所が存在すると思います。そこで、市民にアンケートなどの調査を行い、実際の声を拾い上げ、設置、修繕を行って頂くことを提案します。

人々が多く住む総社において、安心して暮らせるということは大前提であると考えられます。総社市を愛し、ここに住む方々の安心、安全を確保するために、これら2つの提案を優先事項としてご検討をよろしく願いいたします。

(拍手)

○議長(仲田 朱里)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

林議員のご質問にお答えをいたします。まず、街路灯のことについてであります。本当に

僕なんかですね、こっちに帰って来たばかりの時は、暗いなあ、なんでこんなに田舎なんだろう、ここはもう本当に哲学の町か、というふうに思っていたりしたんです。だけど、それがだんだん、だんだん慣れてきて、暗いんでも普通だなとこっちの人はほとんど思っているんですけども、やっぱり暗いでしょう。ですから林議員の意見を取り入れて、来年度4月1日以降から、総社の「夜空ピカピカ大作戦」と銘打ってね、予算化してまいります。今までこれどうだったかと言いますとね、各町内会が維持管理している街路灯が総社市には3,200基あるんです。結構ある。市が公道みたいなところで、幹線道路みたいなところで一括、直接管理しているところが800基あるんですね。4,000基の街路灯があるんですけども、それを、これからさっきおっしゃったような危険な箇所に市が資金を投じて明るく変えていこうと思います。これ1年では出来ませんが、今まで街路灯の修復とかその新設とかも含めて、1年間に300万円、たった300万円で15小学校区から要望があるのをあなたのところ1個、あなたのところ駄目とか、そういうことでやるから達成しないし、いつまでも暗い町だったんですけど、来年は今のところ1,500万程度一括して夜空の予算、夜空予算というのを設けて議会に提出したいと思っておりますので、それによって必要な箇所に夜空を明るくしていこうと思います。将来的には、総社には良いものがないんだね。横浜の馬車道とか行くと街路灯が観光地みたいなね、本物の良さみたいなものがあるでしょ。だけど総社の街路灯はみんな大きさが違うし形も違うし、虫が底に溜まっているような暗い街路灯があったりとか。そうじゃなくて、やっぱり総社のスタンダードな、例えば五重塔の形をしている街路灯とか、ちょっと統一デザインを作ってね、それをずっと全市にちりばめていくような、明るくもあり素敵な洒落た形であり、みたいな街路灯をあちこち増やしていきたいと思っております。ですから、その部分では結構思い切った予算を投じて、例えば3年間で一気に増やすとか、やっぱり目に見えるように変えていこうと思います。

それから2点目ですが、該当箇所の具体的な直し方ややり方については担当部長から答弁をいたしますけれども、僕もよく走ってるでしょ。会ったことありますよね。ありませんか、僕よくジョギングしてるんですけども、街中を。総社高校の前の辺りとかもよく走っているんですけど、ほんと歩道にね、もうガタガタ、ガタガタ、ガタガタ段差があるっていうのは、昭和60年代までの産物なんです。あれは道路から車がはみ出してくると危ないぞということで歩道の方が段を高くしてあるんです。それで、店舗の入り口はそれじゃ入れないので下げていくから、どんどん段が出来る。また新しい店舗が出来ると、またそこを掘って入れるようにするから、こんなふうにこんなふうになって。あれを走っていると、あの歩道をジョギングで走っていると膝を痛めるんだよね、あれは。だから、出来る限り僕らが出来るところにおいてはフラットにして、歩道を確保するという政策をとってまいりたいと思っております。

それから危険な道路についてアンケート調査を行いということですが、制度はあるんですよ。ほとんど大人が目線とかね、土木委員さんとか地元の代表の方とか、そういう方々のヒアリングシステムというのはあるんですけど、みんなの10代の高校生の視点から見た安全性というのを聞く機会がないんだよね。ですから、是非今日は校長先生もおいででありますけれども、総社南高校それから総社高校のみんなが通ってみてどうかとか、夜どうなのかというのは、意

見として聞く窓口を作って、それを政策提言に変えていけるようなシステムを作りたいと思いますので、是非みんなの意見を、安全性に対する意見というのを後々聞きますから、是非協力をしていただきたいと思います。以上を答弁いたします。

○議長(仲田 朱里)

建設部長。

(建設部長 登壇)

○建設部長(水子 悟)

命によりまして私のほうから林議員のご質問に答弁させていただきます。まず林議員のおっしゃる八番ラーメンの交差点、あそこは南北が倉敷総社線という県道です。それからそれより西側が、またそれも総社停車場線という県道です。それよりも東側、ちょうど県営住宅の方がございまして、そちらの方が市道になっておりまして、まず、県道の南北の総社西中から八番ラーメンまでは、今市長が言われましたけど、マウンドアップと言って歩道を車道よりあげておる歩道じゃなくって、もう両方がほとんどぺったんこ、その間にブロックという車が乗り上げたら危ないのでそういうふうな防止策をしておりますけど、それも改良済みです。そして、交差点というのは、ご存知のとおり横に家が建っております。それを広げるということは、家も壊して広げないといけませんので、今ある範囲内で出会い頭で危なくないような、電柱を取ったり、カーブミラーを付けたり、それからマウンドアップをフラットに直すような、まあこれ県道の管理ですので市では出来ませんので、県のほうによく要望させていただいて協力し合って直していこうと考えております。それから180号線の歩道でございましてけれども、平成20年に地元の、これ国道でございまして岡山国道事務所という国の機関が、国道ですので管理しております。その声掛けに応じまして、PTA、警察、総社市、皆さんで、総社高等学校からザグザグがございましてけれども、その間をみんなで歩きました。歩いた結果、ここが危ない、例えば凸凹があったり、グレーチングと言って格子の鉄の蓋があります、それが良い様に出来てなかったり、そんなところを直してくださいと、皆さんで話し合いをいたしまして、徐々に直していております。そこも道路幅が決まっておりますので、歩道を広く取ればほんとは良いんですけれども、そうすると今度は車が通れなくなります。車の幅というのは、ちょっと難しい話ですけれども、道路法という法律があります。道路構造令というのがあって、車が通る幅だったら、例えば3m、3m25と、それは1日に通る車の数によって決められておりますので、車道を縮めることは出来ません。そうするとなんらかの歩行者の方に安全に通行していただかなければならないということで、もうご存知のとおり赤いポールですね、柔らかい、あれを東総社の駅前には立っております。そういったことをして、なんとか歩行者の方に安全に通行できるような方策を国の方でとっていただいております。それから180号につきましては、ハッピーマート、ちょうどマツダがあってマクドナルドがある交差点、それから東に行きますと伯備線を横断する陸橋があります。そこまでを歩道で整備しようという計画が今現在国の方でたっております。それは当然用地買収も必要なので、

地元の方々の協力も得ないと出来ませんが、それは現在進行中で動いております。そういったことで、少しずつでも、従来の道を少しでも歩行者の方に安全に通っていただくような方法をとっております。以上でございます。

○議長(仲田 朱里)

4番 林真由君。

(4番林議員 登壇)

○4番(林 真由)

先ほど1,500万との予算とおっしゃっていたのですが、これは、この1,500万によって一体何本の街灯の数が増えるのかというのが分かりませんでしたので、お伺いします。総社のオリジナルデザインとおっしゃっていましたが、オリジナルデザインとなると、それもやはりそれなりのお金になってくると思うんですが、それは一体いくらになるのか、なりそうなのか、ということ。それから、街灯においては維持費というものがかかると思います、電気ですので。そちらの維持費においても長い期間それを保っていけるだけの予算があるのか、ということについてお伺いしたいと思います。

○議長(仲田 朱里)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

林議員のご質問にお答えをいたします。1,500万は、要するに予算を5倍増にした金額なんですけど、今のメンテナンスから新設併せて5倍強になるということでもありますけれども、ちょっと今考えています。大体オーソドックスなやつとして、普通の全くまっさらの電柱から立てて街路灯も作ってそれで電球を架設してやった場合、1基75万円かかっちゃうんですね。75万円掛かって1,500万だったら、ちょっとしかできない。そこで、どうやってコストを削減していこうかということ、今考えようとしています。先般東京に行って九州新幹線をデザインした水戸岡鋭治先生にこういう街路灯を作るときデザイン化してやってみたいんですけどいかがですかねと聞いたら、いやそんな金掛ける必要ないよと言われました。むしろあまり背丈の高い街路灯じゃなくて、もっと足元を明るく照らすように、実用的に背丈を小さくして低くして、それで電球を大きくして実用性に富んだデザインでやればどうか、という今相談段階でございます。これから運用コストも含めてやりたいと思いますので、ちょっと今具体的な数字を言えません。ただ、考え方としては、僕も予算編成をずっと6年やりましたけれども、お金の上手な使い道って色々あるなと最近つくづく思うんですけども、例えば、そうじゃ吉備路マラソンって18,500人も来てくれるけど、実際使っているのは僕らの税金は約1,800万円。一般の市道のぼこぼこにな

ったところを直して、舗装しなおして用水路をつけたりすると、100メートル作ると約1,000万、200メートル作ると約2,000万、土木工事ってすごく高いね。それから、土砂崩れを直して、さらにもう二度と土砂崩れしないようにって、1億以上掛かっちゃう。さっきの街路灯とか、300万、300万、300万と、毎年300万ずつつけるけど、全員不満なのよ、暗い暗い暗い暗いって。だけど付けてないわけではなくて、ちゃんと補修もしているし、新しい箇所も何箇所ずつかは増やしていった。でも300万だったらカスカスなんで、誰も喜ばない。だったら、5倍でも1,500万でそれを4年5年続けることによって、ある一定のその照度は保とうと言って特化して、特別に期間を決めてどっというほうが、僕は市民は喜ぶと思う。教育委員会でもやったように、中学校の教室にクーラーをつけましょう。クーラー無かったんだから、小学校の普通教室に。クーラーつけちゃえと、もう一気にいけというね、あれは総額6,000万くらい一挙に投入してがっといくと一気に出来ちゃう。そういう予算の使い方をした方が、市民は僕は喜ぶんじゃないかと思うんです。中学校に1教室ずつね、毎年1教室ずつ300万400万でチマチマ、チマチマやるよりか、もう一気にどっというような予算配分、要するにメリハリがついた予算配分でやるべきだと思っているんで、ちょっと設置基数はどうなるか分かりませんが、来年1,500万つけて照らしてみても、コストも削減しながらデザイン料もまけてもらいながら、やってみてちょっと来年度再来年度の進捗を考えてみたい。そんな長いことやりません。短期間でどっというような、そういう考え方で進めようと思っています。

○議長(仲田 朱里)

4番 林真由君。

(4番林議員 登壇)

○4番(林 真由)

街灯に続いて道路について質問したいと思います。先ほど180号線沿い常盤通りのところをフラットにしていくといったご意見をいただきました。しかし、先ほどはその予算についてのこと、そしてまた時期はいつごろにするのか、これは子どもや高齢者の命にも関わってきます。是非早めにしていただきたいものですが、それについてお聞きしたいと思います。また、そのフラットにするというのはどのようにするのか、というのがお聞きしたいところです。180号線については県とも交渉が必要ということをお聞きしましたが、180号線は特に細い道になっています。また凸凹もとても多いです。それをどのようにフラットにするかという具体的な案はあるのでしょうか。

○議長(仲田 朱里)

建設部長

(建設部長 登壇)

○建設部長(水子 悟)

命によりまして私のほうからご答弁させていただきます。先ほど申しました県道のフラットの件でございますけれども、これから要望をさせていただきますので、こんなことを言ったら大変失礼なんですけれども、いつになるかというのは明言出来ませんが、出来るだけ早い時期で皆様の安全安心に通れるような歩道にしたいと、そう考えております。180号につきましても、先ほども申しましたが、危ないところは徐々に直していってもらっております。今直って、フラットとマウンドアップというのは、一番いいのは、通常マウンドアップをフラットにするというのは歩道を切るのではなくて車道をあげるんです。そうすると自然にフラットになります。ですが、180号のような交通量の多いところ、それからあそこは基本的には通行止めが出来ませんので、そうすると歩道を切らないといけません。そうすると、横の家がその歩道の高さによって基礎をしておりますので、削ることによって基礎がむき出しになります。だからそういうところが今残っておるわけで、それを、極端なことをいいますが、ちょっと斜めにしたり、そういうことをお願いして、それもこれからのお話になりますけれども、そういうことで少しでも皆様が通りやすい道路を作るということで頑張ってお参りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長(仲田 朱里)

次に、13番 平田汐夏君の質問を許します。

13番 平田汐夏君。

(13番平田議員 登壇)

○13番(平田 汐夏)

私は総社高校家政科1年の平田汐夏です。家政科を代表して、難波夏未さんとともに考えた質問をします。家政科では、児童文化など保育に関する授業、今年11月は食物、被服、ワープロ検定の受験など、さまざまな技術を身に付けて社会に出ようと頑張っています。



さて、先日の市長のお話をうかがい、子どもの医療費無料化制度の危機について気になりました。

平成20年度の子ども医療費約2億700万円に対して、平成24年度の子ども医療費は約2億5,700万円と、4年間で約5,000万円も増加しており、明らかに多くなっていると感じました。しかし、一方、出生率も増えていますので、子どもの医療費が増えているのは、ある意味当然だと思います。ただ問題なのは、4年間で5,000万円も増えていることだと思います。そこで岡山県内で他に子どもの医療費無料化制度に取り組んでいる市はないかと調べました。その結果、県内の市町村すべてで取り組んでいることがわかりました。なかでも、高梁市では、岡

山県内の医療機関等で「子ども医療費受給資格証」と健康保険証を提示すると、原則窓口での自己負担額が高校を卒業するまで無料となるそうです。津山市では、平成22年10月1日から小、中学生の入院診療分が無料となり、平成23年7月1日から小学1年生から3年生までの外来診療分が1割負担に、平成24年4月1日から小学6年生までの外来診療分が1割負担に拡大され、平成25年4月1日から中学生外来診療分が助成の対象となっているそうです。

そこで、子どもの医療費無料化制度の危機の改善について、私たちは次のように考えました。現在の総社市では、小学生以下の医療費は、市と県が全額負担しているので、親が1日に何度も通院させたりして、お金がかかりすぎてしまうなどの弊害があると聞きました。そこで、1日1回は無料で、2回目からは大人と同じく自己負担にするようにして、改善してみるのはいかがでしょうかと思いました。すると、総社市の子どもの医療費が減ると思いますが、いかがでしょうか。以上です。

(拍手)

○議長(仲田 朱里)

市長。

(市長登壇)

○市長(片岡 聡一)

平田議員のご質問にお答えをいたします。貴重なご提言をどうもありがとうございます。ほんとうにそうですね、小学校6年生までの医療費を無料化という決断をして、もう5年が経とうとしておりますけれども、当初の2億円ちょっとから今5,100万円も増えてしまって、総社市の子どもを持つ親たちどうなるんだろう、この医療費がさらに増えていくことになるとやっぱり続けていけなくなりますから、やっぱりお互いがお互いを支え合う仕組みというのは、もっともつとよく考えていただいて、慎重に医療にかかる診察行為については、よく考えて行っていただきたいと切に願っています。ただ、我々市政を預かる人間として、病院に行くななどと決して言うつもりもないし、言えません。ですから、予防しながら、そして病気に対してよく知識を持って対応してほしいと思います。議員がおっしゃった2度目の診察というのは有料化するというのは、すごくいい考えだと思います。それを参考にしながら、来年の3月議会に、私自身の口から今後の医療費のことについてはどうするという決断を申し述べたいと思います。その前に、今日は消防長に、皆さんも知ってほしいんですが、子どもが救急車で運ばれる際のこういう事例があるとか、こういうときにはそんなに、テンカンとかね、慌てないでいいんだとか、そういう救急現場の、救急車で運ぶときの事例などについて報告をさせます。そして一方で、今内閣府から来ている松川保健福祉部長が、この子どもの小児医療費の削減についてありとあらゆる努力、工夫をしてくれています。小児医療費ばかりでなく、国民健康保険の医療費削減なども含めてね、今どうやってその学校や親たちに広めているか、何をやろうとしているか、どこを削ってほしいのか、

どういふ議論をしているのか、ということを保健福祉部長から答弁をいたします。しかし、平田議員がおっしゃった2度目のものについては有料化というのは僕の心の中にしまっ、て、来年度の3月に結論を出したいと思ひます。

○議長(仲田 朱里)

消防長。

(消防長 登壇)

○消防長(関 攝夫)

命によりまして私の方から答弁をさせていただきます。まず救急の出動でございますが、年間2,700件から2,800件位出動しております。その約半数が軽症ということでございますので、救急の適正な利用をお願いいたします。その中で小さい子どもさんの救急がどうかという、熱があるとか、お腹が痛いとか、風邪をひいたとか、そういった救急の出動が多数でございます。医療機関へは搬送しますが、その日のうちに帰宅されるのがほとんどでございます。昼間の搬送より、夜の搬送要請が多くなってきております。夜間のほうが医療費も高くなりますので、ご家族の方には、できれば昼間のうちに受診するなどの工夫をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。以上です

○議長(仲田 朱里)

保健福祉部長。

(保健福祉部長 登壇)

○保健福祉部長(松川 伸治)

命によりまして私のほうから小児医療費について今後何をしていくか、どういふ点に絞って適正化抑制を働かせていくかということについて、ご答弁申し上げます。ご質問の中にあつたんですけれども、平成20年の頃の無料化制度の対象児童が8,446人でした。出生数増えているんですけれども、引越される方だとか、或いは中学3年生は高校生になると無償化の対象じゃなくなりますので、そういうものを差し引きすると、5,000万増えた時点で8,428人ですので、実は対象はほぼ横ばい、減りながら5,000万円増えているということになります。するとですね、この無償化制度の目的に、親ごさんの経済的負担を無くすということが1点と、2点目に子どもに健康になってほしいというのがあります。子どもが数が変わつてないのに病院に行つている、しかも5,000万円分もということは、行きやすくなつたと同時にコスト意識の低下もあつて普段からの予防がおろそかになるとか、こつういふ寒い時期なつても薄着で寝ても仕方ないやと、病院行けばいいしこつういふ例が少なからずあるんだろうと思ひます。これまで広報啓発のほうを進めさせていただいてまして、これぐらひ掛かっているんだよと、1回風邪になれば

どれぐらいかかるので手洗いうがいや普段の健康への気遣い、ちょっと見直してほしいということをお願いしまして、24年度を100とすると今25年度は96ということで、4%程度医療費削減が出来てきてます。ですから、20、21、22、23、24とこれまでずっと右肩上がりだったんですね、これが初めてマイナスになりそうだといいところなんです。さらに増えれば、本当にこの無料化制度、おっしゃったような提案を踏まえてどうにかしないとといったようなところだったんですけれども、子育て支援、「子育て王国そうじゃ」ということもありますので、出来ればこのマイナスが続くのであれば、親ごさん或いはそもそも子どもたちのために無償化制度続けていきたいと思っておりますし、病院に行くなどいうのではなくて、早めに行く、或いは普段の健康に常に、ズボラをするのではなく注視していただくところを、むしろ一番に気をつけていただきたいかなというふうに思っています。特にご提案についてですね、3月に市長結論出すと言いましたけれども、市役所で例えばこういう提案が出てくると、やっぱりその政策どうやったら実現できるかというような話をするんですね。例えば、考えていただきたいんですけれども、おっしゃったようなご提案、例えば課長から部長のところにあつたとすると、じゃあお医者さん2回目だということを、2回目の病院にはどうやって分かってもらいますか、或いはじゃあ2日目なら無料になるんですかと、1日目行って明日行けばタダだから今日は行かずに明日行こうと。例えば、小児科行かれるとですね、風邪で中耳炎になったりもするんですね。風邪になって小児科行ったら、風邪薬は出しておきますと、ただ中耳炎の気があるので2日目耳鼻科に行って下さいと言われてたら、それは有料になるのかとか、そういうことを詰め合って市役所では政策論議をしていきますので、この他にも良いアイデアがあればどんどん受け付けたいと思いますので、ツイッターだとか或いは全然お電話等々でも構いませんので、貴重なご意見を高校生の皆さんからお聞かせいただければと思います。以上です。

○議長(仲田 朱里)

これをもって、一般質問を終結いたします。

以上をもちまして、総社市高校生議会の日程は全部終了いたしました。

ここで、少しお時間をいただき、高校生議員を代表して、お礼の言葉を述べさせていただきます。

市長さんをはじめ、副市長さん、教育長さん、政策監さんをはじめ、各部長の皆さま、本日は、私たちにこのような機会を与えてくださり、また長時間にわたり、私たちの質問に親身にお答えくださり、本当にありがとうございました。これまで知らなかった総社市の政治について、たくさんの発見があり、とても勉強になりました。今日、私たちが質問の中で提案したことが、一つでも取り上げてもらえれば嬉しく思います。

これからも暮らしの中の様々なことに関心を持ち、私たち高校生も、大人の皆さんと一緒に考え、行動していきたいと思っております。

本日は、ありがとうございました。

最後に、教育長からごあいさつをいただきます。

(教育長 登壇)

○教育長(山中 榮輔)

長時間お疲れ様でした。様々な提案をいただきましたので、これは市長の部局と教育委員会と一緒に実現に向けて努力していきたいと思います。ちょっと残念だったのは、男性の議員が質問がなかったと。次回はぜひ男性も。私も男性なんでですね、どうも負けているんじゃないかと。是非頑張ってください。

この間ですね、先日ですかね、ちょっと話変わりますが、ケネディ大統領の娘さんが日本大使に就任されて、ふっと思い出したのが、ケネディ大統領が就任演説の中で言った言葉が、今市長が言った言葉とよく似ているんです。市政への考え方、市長の考え方が答弁の中で非常によく分かったと思いますけれども、就任演説で有名なフレーズがあるんですけど、知ってる人。50年以上前ですけどね、下手な英語で言いますとね、たぶん、「ask not what country can do for you, ask what you can do for your country」と言うんです。つまり、国市が自分たちのために何をしてくれるのかということ言うのではなくて、自分たちが国のため市のためにするのかということ考えると、そういうくだりがあるんですけども、今財政が非常に厳しくなっている。世界中がそうです。財政に余裕があるのは大都市だけです。そんな中で、少子化が進んでいくということは非常に大事なフレーズだと思います。そういうことを胸にして、将来、総社市の人、総社市に住まないかもしれませんが、是非、総社市を盛り上げていただくようお願いしまして、簡単ではございますがごあいさつと致します。

○議長(仲田 朱里)

ありがとうございました。

これをもちまして、総社市高校生議会を閉会いたします。

○事務局(小野主任)

ご起立願います。

礼

お疲れ様でした。